



風俗文選

歌文
傳解
七八



福

○ 鄙歌

あふみぢり

よみ人あつむ

引よき北方らんち寒あみれ南づ邊枝已等所ころ所朝味ま味け味年味ま

自得

とせげ

引よきらんちあみれづ枝ころ朝まけ年ま

野らび

おろく

あて難ナ候ナとナ井ナよナえナりナてナまナ人ナらナかナみナ人ナよナわナもナあナつナ枝ナまナりナのナあ

二ついふさあくよあ

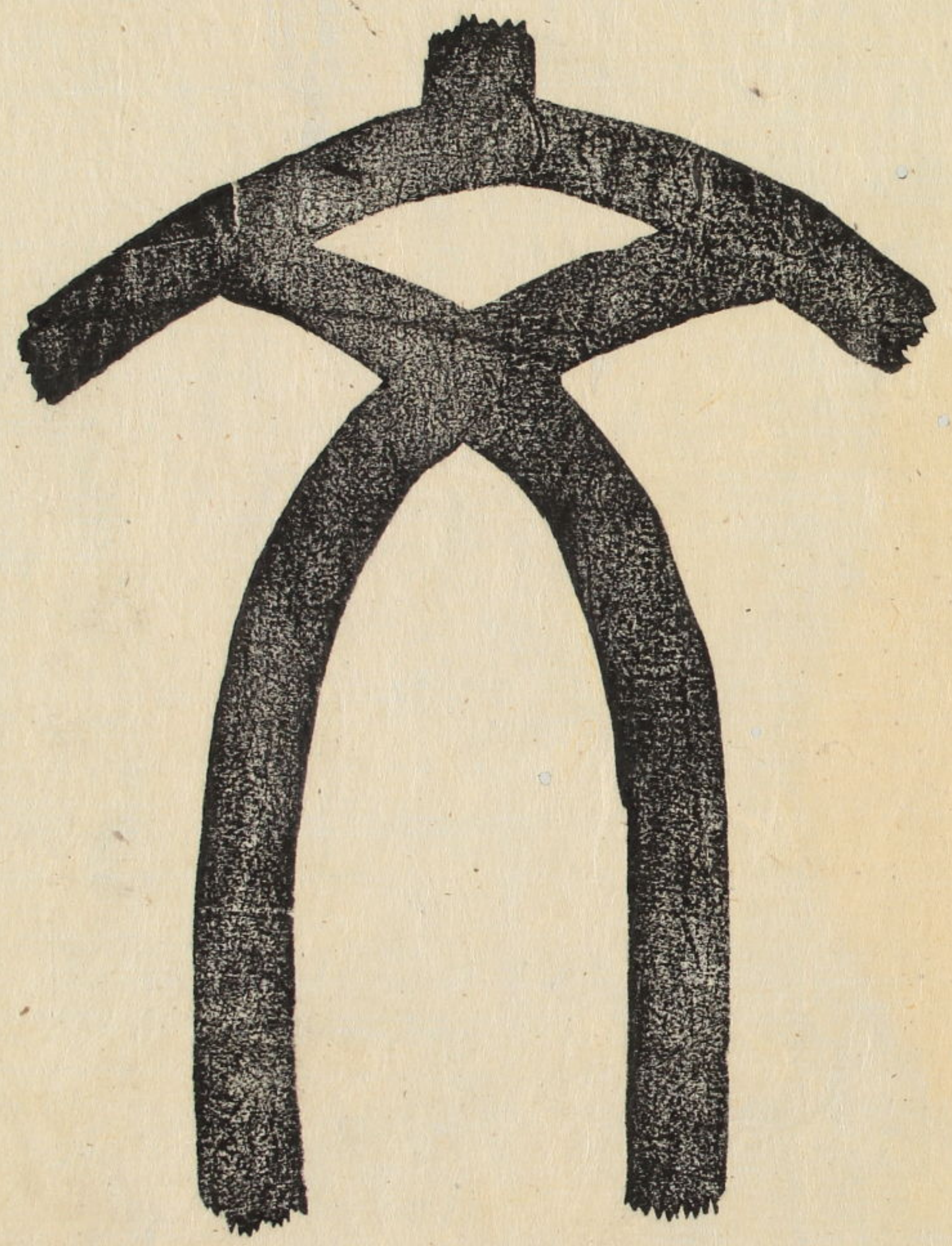
まよ

かたをかきそぐいんを二階うがちて乃ほちいよはまのり

なまいはゆり

ゆり

白くゆらまういんをゆりもや花いそいぬわびづらづく。あつむせり



誹諧發願文

浪化

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考

弔古戰場文

芭蕉

断絃文

許六

○文類

誹諧發願文

五老井 誹諧文選

浪化

○人死く六道の中をさかき目えひさびさの海邊の業園より
 まるごとくやせよ立死すく人々ぞとてハ痛一とぞいへて又そそ。終日人
 汗みぎ。茂乃これ小松池の葉つきて。さす身のおひひとたし。
 屈曲をぬえて強行し。あつ。行。ひ。と。つ。わ。か。だ。先。て。あ。ん。ら。め。も。ろ
 ーか。さ。べ。ー。ま。び。り。め。す。お。瓶。よ。ま。山。万。水。お。ち。い。と。こ。め。む。お。れ。く
 氣づまひなん。差。ま。む。せ。む。と。あ。ら。ば。骨。乃。松。と。心。一。這
 なが。小。清。見。寺。の。梅。み。つ。が。ら。ん。お。の。び。や。り。な。る。風。情。も。あ。ら。ば
 さんど一河の草甘もあましく。か。び。棋。こ。ろ。と。な。て。を。あ。ら。ま。を。し。め。し。
 不。慳。一。日。の。業。と。は。と。り。て。能。く。ま。げ。れ。例。の。心。能。き。よ。や。な。ん。て

ねまは。果は。相と立。此。母。そ。神。亦。ある。或。其。う。川。へ。亦。月。引
つ。ま。谷。相。時。を。し。は。是。神。夜。同。ド。事。か。く。べ。く。ん。飽。を。や。成。ん。
よ。ま。さ。あ。い。ま。も。と。一。花。打。こ。ぞ。る。也。あ。く。神。其。夜。か。き。わ
海。面。を。何。乃。と。氣。も。な。く。亦。腐。し。る。さ。り。と。い。お。多。ま。さ。り。あ
づ。さ。も。も。さ。ら。入。く。也。あ。く。ん。の。せ。て。又。百。十。日。も。な。は。は。し。
は。人。死。ら。ん。ほ。が。あ。く。ぞ。さ。あ。の。河。原。よ。生。れ。て。又。母。亦。り。子。た
小。立。た。ど。ら。る。は。お。お。や。の。所。家。お。下。よ。か。れ。あ。を。く。れ。回。り
る。す。ん。も。又。あ。く。神。か。く。べ。く。一。枝。さ。して。は。佛。よ。を。見。一。月
投。く。あ。も。も。お。唱。へ。し。人。ん。ご。う。い。け。く。死。方。よ。し。ま。さ。く。百。味。し
お。の。領。合。よ。は。び。く。茶。者。者。ま。切。ら。の。は。守。ら。ん。じ。今。昔。も。ん。の。後
縁。に。程。云。結。終。乃。少。さ。も。よ。お。く。一。百。餘。の。中。の。お。数。と。合。さ。く。一
府。の。廻。向。を。あ。く。も。お。く。一。と。り。て。は。葬。し。け。り。を。お。く。

聖靈祭文

李由

○と。神。亦。終。乃。あり。さ。ま。は。寸。地。小。み。穀。を。花。ぬ。不。り。く。寡。婦。が。紡
績。乃。際。る。れ。日。好。く。さ。神。に。負。け。よ。返。ぬ。神。く。饑。口。文。し
閉。る。事。の。く。し。い。く。神。に。極。糸。淨。古。の。甚。と。去。百。味。乃。領。合。を
さ。く。也。玉。蘭。盆。よ。神。に。お。わ。あ。へ。む。此。の。さ。り。途。を。ゆ。く。也。
麻。骨。杖。川。つ。る。と。戸。板。あ。く。ま。の。府。を。つ。た。首。人。を。和。布。付。を。脱
け。ぬ。こ。り。髪。冷。ま。お。顔。の。板。中。あ。い。く。も。人。味。を。神。淨。た。け。ぬ
ま。み。飽。く。は。お。海。乃。か。る。こ。を。よ。わ。く。も。神。く。く。り。聖。引。夫。も。あ。ら。り。
地。獄。乃。を。れ。お。戸。を。く。者。く。り。ん。た。は。さ。り。お。は。合。け。ぬ。也。し。

食好之の振 蘇もくはぢし奢の沙汰もたつべし。すく修羅
高直のあつ神者中有り乃浪人が死ともおひせりもほま言ふ
形ひあまてくる作善切海讀經念佛の御たごも何なりと
かや。仏果を切しきくも。餘鬼あらしはおも神中も
勢羅身ハ着執持のまよさく神く外側もあましくあり神
なるべし神。まよれ列神のあましく教みく。胎ごともせ
神なるも。所の足跡より人数を志す神。神よ送火乃明よ中
出さ神て。孝家乃陰のゆきても。神理地をの神判せん。これ
入界も。形ひ損のほまなるべし。伏惟申元の体察。深層の
教よおほし神。同連乃母をたす。乃海父と沈りあつ神
やん。放流乃衆生とて。あ倫親属の名と呼出。一系も

一まびくけ地をい教よ入庫。一念の若雅小寺の小僧が
あつら。一色とよ海こりゆるよ。ま新々神あがり胎と齒
あしかり。果ハ魚もたぬすあとなりぬ。非恩神よ。つとせし中
六夜聖まれ来去の月ありく。上古々年のまよも。たぬあり
一。流川乃此の管署より。世間一統よ。い合せく。ま海
かまかり。これい。つとふ。所々。坊主のま。まとい。ま。聖果
ま。今年い。神よ。種づるも。地獄極楽れ。七共。色。才。左。所
相のい。ま。ま。ま。い。合。ま。い。海。あ。る。べ。し。六。月。新。脚。の。執。死。と
ま。ま。ま。ま。下。紙。乃。祭。文。と。け。失。と。あ。ま。ま。と。仍。謹。如。新。
聖靈ノ庫ニ一あり。反。ま。ま。と。あ。

剃髮文

支考

○限充乃舍羅剃髮のおも金髪といひ。さしを削りてはも金髪
といふは金髪を捨てる。と如金髪法りおろむ。舍羅
ヤシ。まよ金髪なり。

一きびきし鬘乃髪のおこまう那

糸猫文

小序

同

此文以四六之法。用漢字韻也。是全似誹諧
之漢和。而不然始。以万葉手。尔波文字。用之
為韻。惟為和文。用韻之始。祖太奇也。

○李世が京庵よのひ乃猫見あまて。神を以てしと云
ゆ。人乃子状をよけし小形なつ。心とて。長月亦白く。隣
家の井よまよひへく。おあわぬ。を墓を庵れり。とて。彼を
く。秋自園とせ。改名一を。彼とま。つ。人をよ。み。ふ
け。つ。ぬ。ら。げ。ま。び。丸。牙。形。罪。を。ま。わ。ら。ま。て。李。成。男。子
う。人。果。一。つ。つ。む。と。な。れ。其。文。曰。

秋れ時の子を忘きてら。 冬が心とに付て。 噪が。
好の星の糸にかこれも。 一子嵬が。 糸が。 一夜小喜み。

このよを錦茵一千金乃娘をら。 之也。

希よハ里雲深乃一重みる尾と。 連梨。

と被せし

柏木湯門の夏。

虚堂和尚の待。

迷迷

柳千よあふ終て。栴檀の脈脈なる春。

盗盗

負負はわすし。浮子にるせしひく。燈火燈火出るふ時。

嵐ハ可捕捕とは作はらりて。塵券塵券を杜工部。

性々無用とい誠わく。吳見吳見ら白藏司。

首首ハ世世の宮宮の中。牡丹牡丹を遊りて花花を止ま速く。

今々季季四四の庵庵の辺。天天夢夢垣垣にあ荒終終く。實己す遅くふ遅く。

あまの住住が孫孫物物もち契りて。さうに傾城傾城のソ力ソ力仁葉仁葉。

ほせほせわわああららと音音樂樂あ遊そ心。とも小菩薩小菩薩お教教奇奇。

玉玉ハ無杯杯のちも無味味。

蓮蓮の其其の良も良降降り之。

涅槃涅槃の遠遠乃乃声声切切く。

困困所所裏裏け忽眠眠を驚あ驚ま驚ら驚ふ驚お驚ど驚く。

菩提菩提の月月の影影映映て。

卒卒都都婆婆の心心を何け疑り疑く疑。

如如是是之之玄玄白白生生

南南無無呵呵弥弥

吊古戰場文

芭蕉

ついで乃乃草草燈燈。一一瞬瞬乃乃中中。大内大内終終れ終る終。

あり。秀秀衡衡り。跡跡ハ。回回野野小小なりなりく。金金鷄鷄心心の心取取を取終終る終。

ふふ嶺嶺子子終終る終。水水上上川川ハ南南流流る流。大大河河を河終終る終。

独さいし。小春信く。使もなり。あしるめ末おのつて
ゆる出り。さ。遣方なり。ん。家小方お友あり。江東平田
邑。光の遍照也。十四世の傍。亮儒上人。字。孝由。一の字。實宗。
四條戸と号も。嘗て律師も何ぞ。姓。縁別河野の福流
かして。安養の完戸と兼合せり。母もむ。やし。り。死。深。忘
お女。く。友原なり。り。傍。之。代。家。之。代。ある。茶。子。交
りて。さ。い。と。ぬ。え。又。ら。基。も。き。く。揚。扇。と。り。何。ん。ん
。象。傍。の。内。社。は。文。ら。り。二十。末。の。傍。々。寺。以。志。ま。あ。ら。家
と。ゆ。ら。事。と。ま。く。む。び。り。校。帳。も。む。ま。入。回。ト。食。も。足。と。つ。じ
。若。孔。孟。乃。理。庶。人。を。教。も。り。い。生。く。家。甲。斐。ハ。ある。り。い。い。心
。老。佛。お。り。た。こ。ら。び。り。よ。ま。く。り。ん。内。身。代。破。滅。々。立。而。出。じ。て

とて。是より天地をそとて。神く。牡丹芍薬のひらけ也。梅海
棠も能はる。わ。か。さ。い。思。痛。を。純。の。鈍。さ。り。ん。果。ら。食。好。志
上。も。落。て。餘。著。麦。切。々。と。思。用。も。き。う。も。終。り。や。こ。お。豆。腐。上
流。も。く。中。お。揚。子。鼓。お。び。や。り。面。目。も。な。く。と。夜。も。ぬ。さ。り
。月。人。官。見。見。家。も。ま。ん。の。り。中。條。戸。乃。内。母。の。い。る。お。神。書
を。約。信。び。七。粒。の。踏。ま。よ。い。落。の。基。を。搜。も。草。子。お。教。と。取。り。凡
り。や。い。の。昌。法。あ。く。も。内。基。も。う。神。水。基。も。た。り。し。好。写。き
乃。た。は。よ。い。茶。且。お。句。好。瓶。ふ。様。持。乃。逃。所。殺。計。お。定。寐。香
徒。者。ご。を。衣。其。平。よ。お。海。と。は。し。り。小。傍。の。白。眼。も。目。に。は。つ。く。面
。い。い。い。く。ら。ま。お。に。こ。う。く。れ。も。長。く。お。た。の。夜。を。う。ら。び。
伊勢信吉乃抱かよての比も共小春信をさうま。若野龍田の

德

卷五

卷五

東順傳

芭蕉 牧童傳

支考

公平傳

汝邨 五郎四郎傳

支考

靈虫傳

去來 疝氣傳

李由

直指傳

許六

風俗文選卷之八

五老井 許六 選

傳類

東順傳

芭蕉

○老人東順、撰成して、を祖父江別、世田、於農士、竹谷、神、
 撰成して、よとの、晋子、母方子、於其の、なりし、あつて、七十歳、
 と、名、乃、秋、の、月、を、や、め、か、拵、乃、よ、ふ、詠、め、く、花、名、の、情、家、を、出、り、
 心、い、か、ざ、り、お、座、の、河、も、り、ま、て、神、を、神、を、終、り、文、神、乃、句、
 か、ま、み、と、て、大、家、お、典、の、甚、よ、限、る、お、る、を、一、内、醫、を、学、び、
 恒、乃、老、と、し、な、多、何、某、乃、云、り、傳、抄、を、以、て、金、魚、龍、座、乃、
 終、り、れ、し、さ、れ、ば、も、世、路、を、い、と、い、く、名、神、の、名、を、や、ぶ、り、杖、を、

且小述遠して大紫核の陽氣をよとぞくかまじ
一世乃を病をかぞへば花よ帰時梅よ晴る時人乃と先
をうきん卯のむよ子夢百夢を叫び陰を感して
秋乃世をせれ夢よわも志をく時あわ初る此大紫
を感してさしてさきりごとよりわよひよかしくさ
をさしても庇負は世たの傷もさるも公衆よわく
不為とていへてもをれづる皆証疝氣よ夢
一先病氣あお愈乃た食もかまじ病乃とよはれ
まざめくる聲もぬく病やと名付ごとくさ
老のあ男女小兒のさくおもりく又さ虚うつら
なり大雪とまわり而氣をさるとも土用八專よ
あり

轉記して胸膈小横より病をさくハ眩暈を記
一怔忡とて胸をおくす世よ醫術乃良薬
ありく二和ぬ積乃煎湯を施一あるハ
おろしよ弱きカハラシトウガ
先よ肉ハ花肺乃胎より神瀉腹お癒いよさそ
不届け界より時矢場小杖乃されよさ
とよ糸河原よさくは神て尸の上お取辱を
一陣やぶさくハ穢堂まのさく
を腹の腹つみと鼓つく天下さく
そり

橙や疝氣治 神代り

文庫

念ひなく。今又一人もけむらひを穿人あはし
程又世念乃りある程。後人色慾相乃血脉。嗣^ツ人
といふるなり。今けむらひを讀ぐ。定らく隨^ツ田といふむ。
漸^ツく。又と田といふ人あはし。
を死せむ。出^ツ神その怒^ツやうく。あはし。か
をいふる。をいふる。

同

てのみもよかり神を。世務を仕事して。つとに終つて。か
たしぬすのて。うしむわく。類いあはれ。おまは記念
眼あふ右人の心を。開き。ゆ。臨乃一徳。取命の恨。べ
鞆のつがを。よ。は。ま。く。涙も。お。ひ。ら。け。は。な。ら。ん。

笠塚碑

孝子

○江東平田邑。光永通照寺の比。先師を。は。ね。の
笠塚。あ。ら。し。十四世乃。信。善。所。入。今。堂。法。つ。て。し。り
二十余。の。恩。ら。長。聖。徳。より。深。く。を。し。ら。打。せ。た。ん
たら。ゆ。り。ま。り。朝。の。香。華。を。備。へ。父。よ。は。分。は
凍。へ。推。勘。を。定。め。む。し。り。を。行。ふ。む。し。り。善。徳。に。ま。り

お。ひ。り。て。ら。た。の。信。徳。の。を。え。せ。け。竹。村。の。日。身
東。懐。く。ま。り。と。う。や。び。月。乃。何。も。は。な。し。お。は。な。し。お。は。な。し。お。は。な。し。
い。つ。た。り。ま。り。を。使。し。ま。り。を。使。し。ま。り。を。使。し。ま。り。を。使。し。ま。り。
は。よ。け。は。な。し。を。こ。う。も。終。よ。志。井。の。ま。り。た。て。し。り。人。者。一
向。を。さ。り。ま。り。か。の。塚。は。回。り。く。細。じ。世。の。執。行。因。を
孫。一。ま。り。は。な。し。小。尾。死。塚。深。川。一。ま。り。お。ま。り。の。塚。結
中。の。前。塚。本。の。前。塚。を。刺。し。り。考。田。骨。を。葬。り。し。り。
さ。れ。は。な。し。乃。塚。と。も。ま。り。は。な。し。一。ま。り。も。は。な。し。類
な。し。ん。あ。れ。し。り。死。後。乃。所。人。仰。お。ま。り。ん。想
り。を。な。し。ま。り。な。し。り。な。し。り。神。を。ま。り。し。り。塚。の。ま
り。ま。り。れ。が。所。を。く。ま。り。一。向。を。ま。り。し。り。し。り。

